

## 令和2年度第1回仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和2年9月17日（木）9:30～11:20

場所：佐川町健康福祉センターかわせみ 1階 元気ホール

出席：委員23名中、19名が出席（代理出席2名含む）

議事：（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

（2）地域アクションプランについて

1）第3期仁淀川地域アクションプランの取り組みの総括について

2）第4期仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

（3）産業成長戦略について

1）観光振興の取り組みについて

2）移住促進の取り組みについて

議事（1）（2）（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

（2）地域アクションプランについて

1）第3期仁淀川地域アクションプランの取り組みの総括について

(No.12 自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化)

(堀見委員)

参考資料の本地域アクションプランについて、指標である「ものづくりと連携した起業者」の令和元年度末実績を0人と報告していたが、起業者が1人いるので訂正をお願いしたい。

(計画推進課 笹岡総括)

速やかに訂正いたします。

(No.32 歴史と文教を活かしたまちづくりによる観光の推進)

(堀見委員)

同じ参考資料の本地域アクションプランの指標で、「青山文庫の入館者数」や「上町まち歩きガイド利用者数」の数値目標に対する客観的評価が「A-」になっているが、こういった計算に基づいているのか。

(計画推進課 笹岡総括)

第3期計画の出発点の数値と最終年度の目標値との差を増加目標とし、計画の最終年度の実績から算出した実際の増加数を先ほどの増加目標値で割ることで達成率として計算する。その達成率が60%未満だった場合は「A-」ということで、客観的評価というかたちでお示しをさせていただいている。

## 2) 第4期仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

(No.20 道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト)

(堀見委員)

道の駅の取り組みについて説明いただいたが、どうして「ごちそう佐川」かということ、佐川町には多様な地層があり、その「地層」と引っかけている。そして、それにちなんだ食事やお菓子を用意したら面白いのではというアイデアもあって「ごちそう」としている。これからは確実にごちそうが増えるということで、期待していただけたらありがたい。

また、町の9月議会で基本設計にかかる補正予算を承認いただいたので、これから全国的に公募を行い、11月末までには設計者を決定し、年度内に基本設計を仕上げる予定で進めている。

道の駅のオープンは2年程先になるが、佐川町の商品だけで売り場を充実させることは多分難しいので、仁淀川流域市町村の商品も売り場で扱わせていただければありがたいと思っている。今後、運営会社も設立して準備を進めていくので、その中でお話をさせていただければと思っている。

そして、道の駅の中には、木のおもちゃで子どもたちが遊ぶこともできる「おもちゃ美術館」もつくようになっており、子ども連れのご両親や若い夫婦といった方が多く訪れてくれる道の駅になるのではないかと考えている。

## (3) 産業成長戦略について

### 2) 移住促進の取り組みについて

(小田委員)

資料の地域別移住実績で、前年同期と比較すると仁淀川地域は半分以下になっている。他の地域はそれ程ではないが、どのように分析されているか。

(移住促進課 山本補佐)

仁淀川地域は、前年の43組から今年15組となっているが、一番の要因として、前年のこの時点では、他の地域に比べて仁淀川地域への移住実績が多かったという点がある。また、どこの地域も一定あるが、今回の新型コロナウイルスの感染拡大も受け、住宅の内覧などを止めている期間が長かったことや地域おこし協力隊の採用時期を遅らせるケースが多かったことなどから、数としては他の地域に比べて少なく見えるようになっている。

加えて、他の地域は、広域で移住促進の取り組みを進めている点があるが、それについては、仁淀川地域も今年、移住促進・人材確保センターと連携して広域でのイベントを企画されているとお聞きしているので、そういった取り組みを今後もぜひ続けていただければ、さらに数も増えてくるのではないかと考えている。

(小田委員)

広域エリアをまとめて対応する窓口や紹介するシステムが、他の地域にはあるということか。

(移住促進課 山本補佐)

例えば、移住ツアーや都市部での相談会、交流会、セミナーなどを広域エリアでまとめて行っているところが多い。

(小田委員)

これまで仁淀川地域においてもそれぞれが特色を出しつつ産業振興に取り組んでおり、その

結果、仁淀川の知名度も結構上がってきていると思う。移住促進や関係人口を創出する上でも、観光はその動機づけになると考える。移住促進や関係人口を創出する上で、観光はその動機づけになると思う。移住に関してはまだちょっと弱いかなという感想だが、観光振興がその入り口とすれば、新型コロナウイルスの収束後も踏まえた仁淀川地域の振興について、ぜひ予算面も含め様々な角度から県の支援をいただきたい。

(中山委員)

日高村では、地域おこし協力隊の方が移住者と地域の間に入って、若者とつなげたり仕事の紹介をしたりと自然なかたちでつなぎ役になってくれており、とても良い雰囲気です。

そういった意味で、移住した方に向けた、地域の方とのつながりなどの精神面や就職面へのサポートについて、説明をいただきたい。

(移住促進課 山本補佐)

移住促進事業において、移住者に定住してもらうための取り組みはとても大事だと考えている。移住した後のサポートとしては、地域移住サポーターの方が地域での身近な相談役となったり移住された方の交流会などを行ったりしている。身近に相談できる人がいるという部分も大事にし、定住につなげたいと思っている。

(中山委員)

ある1人にサポーターとしての任を全て任せるのではなく、多くの若い協力隊の人たちは情報の発信力も強いし、人のつながりを求めて高知や地方に移住していると思うので、そういう人たちを、地域に元々住んでいる若者たちとつなげるということをもっとやっていただくと、地域が元気になる、何かいい提案が出てきたりということにつながると思う。実際に日高村はそういう動きになっている。

(移住促進課 山本補佐)

地域おこし協力隊の方が地域地域で核となるような活動をされている事例が多いと、当方も把握している。

協力隊の方が、先輩移住者として特に気持ちもよく分かたり、立場もよく理解されていると思うので、県としても先輩移住者として話をさせていただくことをとても大事にしている。移住相談会などでも、協力隊の方には、体験談に加えて、良かったことだけでなく悪かったこと、困ったことなどをしっかり説明していただくようにしている。

ただ、そういった方に負担が掛からないように、地域や市町村の皆さんと話をしながら、各地域でうまく進んでいくようにやっていきたいと思っている。

(以上)